

## その17 弱みに付け込まれないために

近年、高齢者の財産を狙ったさまざまな犯罪が増えており、その手口はますます巧妙になってきました。また、終活を行う高齢者が増えることで、それに伴うトラブルも発生しているようです。

自分は大丈夫と以为っていても、突然の電話や訪問者からの甘い言葉には要注意です。歳をとって判断能力が低下すると、だまされる危険性も大きくなります。老後を安心して暮らしたいと願う人々たちにとって「お金」は大きな不安材料となるので、

年金が主な収入源の高齢者にとって「必ず儲かる」ときけば、少しでも預貯金を増やしておきたいと思うものです。その弱みに付け込んで、詐欺師の多くは、「損はしない、必ず儲かる」といった言葉で近づいてきます。また、身体機能の衰えから健康に不安を持つ心理を巧みについて、健康関連商品やサービスを購入させるという手口もあります

おためしやモニターなどとし、のちに高額な商品売りつけてゆくといったものです。

ひと昔前は、子どもや孫と同居する人が多く、かかってきた電話をとるのは高齢者以外の家族のことも多く、高齢者にとっても家族にすぐに相談することができました。

流行しているから、みんながやっているからだけで飛びつかないこと、子どもや孫と離れて暮らす人は、日頃から家族と情報を共有しておくことも大切ですし、日々のニュースでは、さまざまな詐欺の事例を知ることで、危険に気が付く判断力を養うこともできます。

終活詐欺に限らず、電話でも何でも勧誘があったら必ず身近な人に相談することです。もし相談できる血縁者がいなかったら、消費生活センターなどに相談してみてください。

【消費者ホットライン 電話：局番なしの188番へ】

## その18 その写真は残す？

身の回りの整理の中で、比較的手をつけやすいのが写真整理ですが、いざ始めたのはいいけれど、思った以上に量が多かったり、思い出に浸ってしまったりと、なかなか作業が進まない方も多くおられます。写真やアルバムの整理は、時間がかかり根気のいる作業です。

さて、終活における写真整理には、『遺族の負担を軽くする』『自分の生きた証を遺す』といった意味があります。では、遺族が故人を偲び、写真を大切に保管してもらうためには、どのように整理したらよいでしょうか。ポイントは大きく3つです。

①体力があるうちに仕分ける 老化や病気で体力が衰えると写真の判別も正しくできなくなる可能性があります。なるべく元気なうちに取り掛かりましょう。また一緒に行ってくれる家族がいれば、思い出を語りながら楽しんで整理してみてください。まずは一カ所に写真をまとめて、残したい写真か処分する写真かを判断します。その場合、似たような写真は省いていき、誰かに見てもらうことを意識して写りの良いものを選びましょう。出来れば『自分らしさ』が伝わる写真を優先すると良いですね。

②いつでも見られるようにする 選び抜いた写真は、1冊のポケットアルバムにまとめます。この時、ある程度大まかに年代別に順にして納めていくと、後で見返す時にも都合がよいでしょう。万が一、介護施設などに入所することになったとしても、1冊にまとまっていれば、気軽に持って行くことも出来ます。

③残りの写真はデジタル化する アルバムに収めきれなかった写真や、処分することがためられる写真は、データ化することをおすすめします。自分でできなければ、そういった専門業者もあります。大切な写真をいつまでも残したいと思われるなら、終活のひとつとして早目に整理してみませんか。